

令和3年度 自己評価計画

石川県立いしかわ特別支援学校 No. 1								
重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
1 授業実践力の向上	① 児童生徒の育成すべき資質・能力を育むために、授業づくりのポイントを明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組む。	研究研修課 全学部	新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、子どもたちの学習意欲を高めるために、昨年度までの取り組みを土台に主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを一層充実させる必要がある。	【成果指標】(教員) 単元や題材を見通して主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりのポイントを押さえ、授業実践している。	担当する授業において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりのポイントを意識した授業実践を、各期に1回以上行った教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 9月と1月	
	② 児童生徒が授業の目標を達成できるように、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を計画し実践する。	教務課 全学部	資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業について、授業参観で児童生徒の姿から保護者の理解を得る必要がある。	【満足度指数】(保護者) 児童生徒が授業で「主体的・対話的で深い学び」を体現していると感じている。	授業参観時のアンケートで児童生徒の様子から授業に満足しているあるいはやや満足していると考えられる保護者の割合が A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 6月と11月	
2 キャリア教育の推進	① 児童生徒の発達段階に応じて、周囲の人と協力したり、積極的に集団参加したりなど協働的に活動に取り組む力を育成する。	キャリア教育推進委員会 全学部	自分の意思や考えを他者に伝えたり、周囲の人と協力しながら、集団に参加したり地域生活を送ったりすることができる力の育成が求められている。	【成果指標】(教員) 自ら進んで、あるいは他者と一緒に、集団へ参加したり周囲の人と協力したりなど、協働的に学習活動に取り組んでいる。	積極的に集団参加したり、進んで周囲の人と協力したりなど協働的に学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	キャリア教育推進委員会による教員へのアンケート調査 9月と1月	
	② 本校のキャリア教育全体計画に示したキャリア発達の視点を取り入れた授業実践を行う。	キャリア教育推進委員会 全学部	本校のキャリア教育全体計画を基に、育成を目指す4つの資質・能力を各学部の段階ごとにバランスよく積み重ねられる取り組みが必要とされている。	【成果指標】(教員) 各学部のキャリア発達の視点を取り入れた授業実践を行う。	各学部のキャリア発達の視点を取り入れた授業実践の取り入れた項目数が A 7～9ある B 5～6ある C 3～4ある D 2以下である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	キャリア教育推進委員会による教員へのアンケート調査 9月と1月	

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 安心・安全な学校づくりと健康・体力の保持・増進	① 本校の児童生徒や保護者への教員の丁寧な対応と主体的な挨拶の励行を徹底する。	全学部 総務課	昨年度の取り組みから、教員の主体的な挨拶に関する自己評価は高いが、丁寧な対応に関してはまだ十分とは言えない。全教員が丁寧な対応と主体的な挨拶の励行に継続して取り組み、児童生徒や保護者、来校者が安心できるような学校づくりを更に目指す必要がある。	【満足度指標】(保護者) 教員の挨拶や対応が丁寧で気持ちの良いものであると感じる。	教員の挨拶や対応が丁寧で気持ちの良いものであると感じている保護者の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	保護者によるアンケート調査 9月と1月
	② 児童生徒一人一人の運動動作や姿勢等の成果と課題を把握し、維持や改善を図る。	保健体育課 肢体小～高等部	児童生徒の運動や姿勢の実態把握に努め、前年度は歩行練習や姿勢保持、手指の巧緻性など一定の成果がみられた。個々の課題に応じた取り組みを継続して行う必要である。	【成果指標】 課題に応じた運動等の取り組みにより、運動動作等の維持・改善がみられる。	運動動作等の維持・改善がみられた児童生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	指導記録やチェック表による判定 9月と1月
	③ 児童生徒一人一人の実態に応じた体力(持久力・運動を続ける力)の維持や向上を図る。	保健体育課 知的小～高等部	各学部において、体力づくりや体育の時間に各種の運動に取り組んでいるが、今後も児童生徒の体力向上という視点で、継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 一定の時間運動を続けることや、時間内の取り組み回数の維持や増加がみられる。	運動を継続する時間や回数の維持増加した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	指導記録やチェック表による判定 9月と1月
4 校務分掌等の改善と工夫	① 校務分掌等の業務の平準化と効率化に努める。	全学部	校務分掌及び校内業務等の見直しや改善に積極的に取り組み、自らのタイムマネジメントを意識した業務遂行により、時間外勤務時間の軽減を図る。	【満足度指標】(教員) 校務分掌等の更なる平準化と効率化を推進し、計画的かつ効率的な業務遂行をする。	効率的な業務改善のアイデアから2つ以上取り組み、業務の平準化と効率化が図られたと感じる教員の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である 【達成目標 B 以上】	中間評価が達成基準に満たない場合は、取り組み体制を検討する。	教員による自己評価 9月と1月